島根大学医学部内科学講座内科学第四医局報

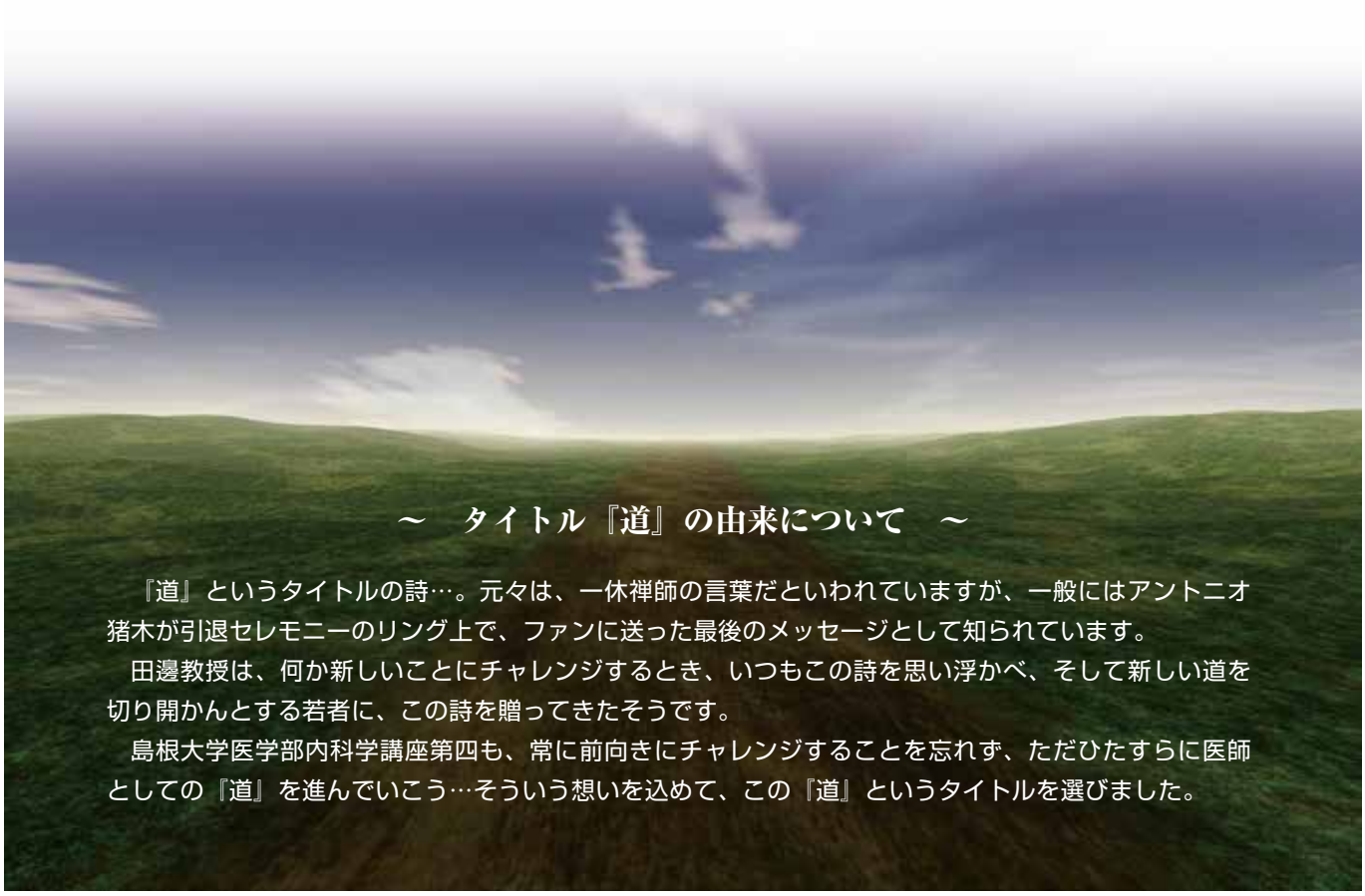
道

～令和2年秋号～

今年は「そうだ、出雲大社行こう」と地元のパワースポットに何度も行きました。

『道』

この道を行けば
どうなるものか
危ぶむ無かれ
危ぶめば道はなし
踏み出せば
その一足が道となり
その一足が道となる
迷わず行けよ
行けばわかるさ



～　タイトル『道』の由来について　～

『道』というタイトルの詩…。元々は、一休禅師の言葉だといわれていますが、一般にはアントニオ猪木が引退セレモニーのリング上で、ファンに送った最後のメッセージとして知られています。

田邊教授は、何か新しいことにチャレンジするとき、いつもこの詩を思い浮かべ、そして新しい道を切り開かんとする若者に、この詩を贈ってきたそうです。

島根大学医学部内科学講座第四も、常に前向きにチャレンジすることを忘れず、ただひたすらに医師としての『道』を進んでいこう…そういう想いを込めて、この『道』というタイトルを選びました。

内科学第四医局員・学内同門名簿

（2020年11月現在）

■内科学第四

田邊　一明（医学部附属病院副病院長、教授・循環器内科診療科長）

■循環器内科

遠藤　昭博（准教授・副診療科長）
渡邊　伸英（助教・医局長）
佐藤　寛大（助教）Minneapolis Heart Institute
大内　　武（助教・外来医長）
香川　雄三（助教・病棟医長）
山口　一人（助教）
川原　　洋（医員）
大嶋　丈史（医員）
岡﨑　浩一（医員）
森田　祐介（医員）
安田　　優（医員）
坂本　考弘（医員）
古志野海人（医員）
田邊　淳也（医員）
（学外）
岡田　大司（神戸市立医療センター中央市民病院）
中村　　琢（松江市立病院）
和氣　正樹（東京大学）
松田　紘治（松江市立病院）
朴　　美仙（神戸市立医療センター中央市民病院）
黒田　紘章（益田赤十字病院）
山口　直人（松江市立病院）
三浦　重禎（浜田医療センター）
石倉　正大（島根県立中央病院）
藤田さゆり（益田赤十字病院）
清水　彩華（済生会江津総合病院）
山口まどか（済生会江津総合病院）

■留学生

Ahmed T. Shamim（バングラディシュ）
Haque Rakibul（バングラディシュ）

■腎臓内科

伊藤　孝史（ワーキング・イノベーションセンター准教授、診療科長）
江川　雅博（助教）
福永　昇平（助教）
吉金かおり（医員）
川西未波留（医員）
星野　祐輝（医員）
大庭　雅史（医員）
（学外）
松井　浩輔（出雲市民病院）
岡　　朋大（平成記念病院）
花田　　健（松江赤十字病院）
中西　宣太（松江赤十字病院）
岩下　　裕（浜田医療センター）
山内明日香（近江八幡市立総合医療センター）
岩下　裕子（浜田医療センター）
佐藤　陽隆（聖マリアンナ医科大学）
高瀬健太郎（東京慈恵会医科大学）
芦村　龍一（大阪大学）
園田　裕隆（浜田医療センター）

■内科学第四資料室

影山久美子
藤森　直美
武田　　瞳
大國　視子

■総合医療学講座

高橋　伸幸（教授・大田総合医育成センター）

■検査部

吉冨　裕之（助教）

■救命救急センター

小谷　暢啓（講師）

教授挨拶

内科学講座第四 教授　田邊　一明

師走となりました。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。コロナ禍で難しい時間が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。ウイルス感染症が世界の常識だと思われたことのいくつかを常識ではなくしてしまいました。来年のカレンダーに予定を入れながらも、日々の業務に追われ、ウイズコロナ、ポストコロナと言われてもよくわからないのが正直なところです。しかし、春からこの時期、私たちの生活になくてはならないものが何か、なくても別に困らないものが何か、そういうことが少しずつ見えてきたのではないか、という気がします。医局としましては、自分たちができる能力を高め、何があっても乗り越えられる図太さを備えていきたいと思います。

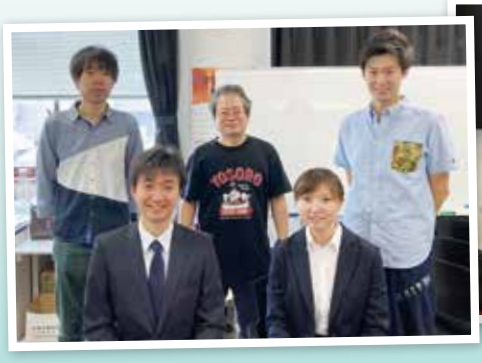
「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」が2018年12月に公布され、2019年12月１日から施行されました。全体目標としましては、(1)循環器病の予防や正しい知識の普及啓発、(2)保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実、(3)循環器病の研究推進であり、「2040年までに３年以上の健康寿命の延伸及び循環器病の年齢調整死亡率の減少」を目指す、というものです。これを受けまして、今年度より関係者等の有機的連携・協力の更なる強化、都道府県による計画の策定が求められ、島根県としましても脳卒中、循環器病の関係者が連携して2022年度を目安に循環器病対策の総合的かつ計画的な推進の確保が求められています。島根県循環器病対策推進協議会が立ち上がり、現状と課題につきまして話し合いを始めたところです。来年度（2021年）中に島根県としましての基本計画を作成します。求められます保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実として以下の10項目があります。

①循環器病を予防する健診の普及や取組の推進
②救急搬送体制の整備
③救急医療の確保をはじめとした循環器病に係る医療提供体制の構築
④社会連携に基づく循環器病対策・循環器病患者支援
⑤リハビリテーション等の取組
⑥循環器病に関する適切な情報提供・相談支援
⑦循環器病の緩和ケア
⑧循環器病の後遺症を有する者に対する支援
⑨治療と仕事の両立支援・就労支援
⑩小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策

ご意見、ご要望がありましたらお寄せください。

さて、国内･外ともに学会発表はほぼオンラインとなり、医局員たちと旅をして、前夜祭や打ち上げやと盛り上がることもない時間が過ぎます。医局員は発表の時だけ着替えて医局から発表し、また着替えて病棟へ、という繰り返しです。時間ができた分、論文を書くという機運は盛り上がり、春先から次々とacceptの知らせが届くようになりました。国内、海外の先生方が大変な中で査読してくれていることに感謝します。それぞれに苦闘がありますが、「小さいことを積み重ねるのが、とんでもないところへ行くただひとつの道」というイチローの言葉の通り、坂道を登っていってほしいと思います。

循環器内科・佐藤寛大先生が2020年11月からミネソタ州ミネアポリスにありますMinneapolis Heart Instituteに留学しました。弁膜症のカテーテル治療を勉強してきます。本年４月からの予定がコロナの影響で延びていました。念願であっただけに解禁と同時に飛び込んでいきました。「行くよりも、行かないことに後悔するだろう」と送り出しました。来春は循環器内科に３名、腎臓内科に１名の新入局員を迎えます。元気で過ごし、また皆様とお目にかかれますことを願っています。



医局報 ～令和２年度秋号に寄せて

腎臓内科　伊藤　孝史

令和２年度は新型コロナウイルス感染症に振り回され、あっという間に最終月になりました。みなさんもそれぞれの病院でのコロナ対策等で大変ご苦労されていることと思います。一刻も早くこの問題が終息することを願うばかりです。

令和２年度上半期の報告です。今年の４月末で退職された秘書の森山瑞希さんの後任に、６月から大國視子さんがこられました。みなさん、よろしくお願い申し上げます。

島根大学内の業務としては、バスキュラーアクセスの造設手術も当科で実施するようになりました。人工血管などは心臓血管外科にお願いしておりますが、一般的なものに関しては当科で対応しています。その際には、クロスアポイントメント制度を利用して、出雲市民病院の松井浩輔先生に診療支援にお越しいただき、後輩の指導に当たっていただいております。ありがとうございます。学生教育に関しては、徐々に病棟実習も再開されてきてはいますが、対面での授業・実習は十分にできず、webだけで腎臓内科の楽しさや我々の熱い気持ちを伝えられないのが残念です。

例年はこの医局報秋号には、春、秋に参加した学会の報告をさせていただいておりますが、今年度は腎臓内科が参加する学会等はほとんどがハイブリッド形式となり、また開催場所が感染注意地域であったため、現地への参加はできませんでした。第63回日本腎臓学会学術総会は日程が変更になり、ハイブリッド形式で開催されました。一般

演題の発表だった福永先生は誌上発表となり、発表の機会がなかったのが残念です。シンポジウムでの発表の機会をいただいた伊藤は初めてのwebでの学会発表でしたが、無事に終えることができました。第26回日本腹膜透析医学会もハイブリッド形式で、一般演題発表の川西先生はwebで発表することができました。第50回日本腎臓学会西部学術大会では川西先生と園田先生が一般演題の発表でしたが、残念ながら誌上発表のみとなりました。第65回日本透析医学会総会は、日程が変更になり、ハイブリッド形式で開催されました。４演題の発表がありましたが、福永先生、山内先生、星野先生の発表はスライドでオンデマンドの発表となりました。第41回日本アフェレス学会学術大会もハイブリッド形式でした。

10月31日には、第32回日本老年医学会中国地方会を主催させていただきました。当初は島根大学医学部附属病院のゼブラ棟で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、完全web開催とさせていただきました。現地開催では考えられない、200名の参加者がありました。また、福永昇平先生が若手奨励賞を受賞されました。

CKD啓発活動では、９月13日に出雲市民会館で開催予定していた第10回市民公開講座　慢性腎臓病（CKD）対策も開催することができませんでした。厚生労働科学研究費補助金（腎疾患対策研究事業）「慢性腎臓病（CKD）に対する全国での普及啓発の推進、地域における診療連携体制構築を介した医療への貢献」（研究代表者　伊藤孝史）の研究も２年目に入りましたが、島根県内はもちろんのこと、全国でも対面形式の市民公開講座等の開催はなかなか難しく、これからのCKDの普及啓発活動の方法を今一度考え直す必要性を感じています。受診控えなどで疾患重症化も問題となっている昨今、web環境を利用したCKDの普及啓発、診療連携体制の構築・強化の方法を模索しているところです。

腎疾患診療に関しましては、浜田医療センターでは岩下裕先生を中心に腹膜透析を立ち上げました。また、益田地域医療センター医師会病院では腎臓内科外来を立ち上げ、紹介患者さんが増加しています。引き続き島根県における地域差をなくすように努力していきたいと考えております。今後も山陰での腎臓病診療を支え、そして全国、世界に発信できる仕事ができるように頑張っていく所存ですので、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。コロナ禍が１日も早く終息することを祈り、そしてその暁にはまた先生方と直接お目にかかり、一献傾けながら、お話しさせていただきたいと思います。

業 績

論文・著書・総説（2020年春号以降掲載、掲載決定分）

1. Tanabe K. Three-dimensional echocardiography: role in the clinical practice and future directions. Circ J 2020; 84: 1047-1054
2. Tanabe J, Shimizu A, Watanabe N, Endo A, Tanabe K. Severe gastroparesis after ablation for atrial fibrillation. Cureus 12 (6): e8610 (June 14, 2020)
3. Tanabe J, Ouchi T, Watanabe N, Tanabe K. A case of wild-type transthyretin cardiac amyloidosis diagnosed in a patient in his 50s. BMJ Case Rep 2020; 13: e236656
4. Sakamoto T, Endo A, Yoshitomi H, Tanabe K. Takotsubo cardiomyopathy caused by intense emotional stress induced by voluntary quarantine during the coronavirus disease crisis. Circ Rep 2020; 2: 382-383
5. Tanabe J, Yoshitomi H, Endo A, Tanabe K. Persistent left superior vena cava with absent right superior vena cava. J Med Ultrasonics 2020; 47: 483-484
6. Oya N, Motosue N, Imaoka K, Ouchi T, Sakai Y, Maniwa S, Tanabe K. Nurses' support for patients undergoing cardiac rehabilitation. Shimane J Med Sci 2020; 37: 51-55
7. Yasuda Y, Okada T, Ito S, Nakamura T, Endo A, Yoshitomi H, Matsubara H, Tanabe K. A case of chronic thromboembolic pulmonary hypertension in which balloon pulmonary angioplasty was effective 6 years after disease diagnosis. Shimane J Med Sci 2020; 37: 67-72
8. Tanabe J, Ouchi T, Kagawa Y, Sato H, Watanabe N, Yamaguchi K, Yoshitomi H, Endo A, Tanabe K. A case of unrecognized myocardial infarction with left ventricular thrombus in a young patient. Shimane J Med Sci 2020; 37: 73-78
9. Tanabe J, Yamaguchi M, Sato H, Endo A, Tanabe K. Essential thrombocythemia in a nonagenarian presenting with acute myocardial infarction. Cureus 12 (8): e9955 (August 23, 2020)
10. Okada T, Hyakudomi M, Yamaguchi K, Watanabe N, Endo A, Yoshitomi H, Tanabe K. Complete atrioventricular block and torsade de pointes due to dose-dense epirubicin and cyclophosphamide therapy. Intern Cancer Conf J 2020; 9: 207-211
11. Tanabe J, Fujita S, Watanabe N, Tanabe K. A case of prolonged atrial pacing latency. Eur Heart J-Case Reports 2020; 4 (4): 1-2
12. Tanabe J, Sato H, Endo A, Yoshitomi H, Shimizu K, Oda T, Tanabe K. A case of severe aortic stenosis caused by unicuspid unicommissural aortic valve. J Cardiol Cases 2020; 22: 170-173
13. Morita Y, Endo A, Inagaki S, Tanabe K. Influenza-associated fluminent myocarditis complicated by Guillain-Barre syndrome. Intern Med 2020; 59 (20): 2517-2521
14. Morita Y, Endo A, Tanabe K. Papillary muscle rupture after transcatheter aortic valve implantation. Catheter Cardiovasc Interv 2020; 1-4
15. Yokoyama H, Yamamoto R, Imai E, Maruyama S, Sugiyama H, Nitta K, Tsukamoto T, Uchida S, Takeda A, Sato T, Wada T, Hayashi H, Akai Y, Fukunaga M, Tsuruya K, Masutani K, Konta T, Shoji T, Hiramatsu T, Goto S, Tamai H, Nishio S, Shirasaki A, Nagai K, Yamagata K, Hasegawa H, Yasuda H, Ichida S, Naruse T, Fukami K, Nishino T, Sobajima H, Tanaka S, Akahori T, Ito T, Terada Y, Katafuchi R, Fujimoto S, Okada H, Ishimura E, Kazama JJ, Hiromura K, Mimura T, Suzuki S, Saka Y, Sofue T, Suzuki Y, Shibagaki Y, Kitagawa K, Morozumi K, Fujita Y, Mizutani M, Shigematsu T, Furuichi K, Fujimoto K, Kashihara N, Sato H, Matsuo S, Narita I, Isaka Y. Better remission rates in elderly Japanese patients with primary membranous nephropathy in nationwide real-world practice: The Japan Nephrotic Syndrome Cohort Study (JNSCS). Clin Exp Nephrol. 2020 Jun 19. doi: 10. 1007/s10157-020-01913-9
16. Yoshimura R, Yamamoto R, Shinzawa M, Tomi R, Ozaki S, Fujii Y, Ito T, Tanabe K, Moriguchi Y, Isaka Y, Moriyama T. Drinking frequency modifies an association between salt intake and albuminuria: a cohort study. Hypertens Res 2020 Nov; 43 (11): 1249-1256
17. Sofue T, Nakagawa N, Kanda E, Nagasu H, Matsushita K, Nangaku M, Maruyama S, Wada T, Terada Y, Yamagata K, Narita I, Yanagita M, Sugiyama H, Shigematsu T, Ito T, Tamura K, Isaka Y, Okada H, Tsuruya K, Yokoyama H, Nakashima N, Kataoka H, Ohe K, Okada M, Kashihara N. Prevalence of anemia in patients with chronic kidney disease in Japan: A nationwide, cross-sectional cohort study using data from the Japan Chronic Kidney Disease Database (J-CKD-DB). PLoS One. 2020 Jul 20; 15 (7): e0236132. doi: 10. 1371/journal. pone. 0236132. eCollection 2020
18. Sofue T, Nakagawa N, Kanda E, Nagasu H, Matsushita K, Nangaku M, Maruyama S, Wada T, Terada Y, Yamagata K, Narita I, Yanagita M, Sugiyama H, Shigematsu T, Ito T, Tamura K, Isaka Y, Okada H, Tsuruya K, Yokoyama H, Nakashima N, Kataoka H, Ohe K, Okada M, Kashihara N. Prevalences of hyperuricemia and electrolyte abnormalities in patients with chronic kidney disease in Japan: A nationwide, cross-sectional cohort study using data from the Japan Chronic Kidney Disease Database (J-CKD-DB). PLoS One. 2020 Oct 15; 15 (10): e0240402. doi: 10. 1371/journal. pone. 0240402. eCollection 2020
19. Kikuchi R, Tsuboi N, Sada KE, Nakatochi M, Yokoe Y, Suzuki A, Maruyama S, Murohara T, Matsushita T; Research Committee of Intractable Vasculitis Syndrome and Research Committee of Intractable Renal Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan, Amano K, Atsumi T, Takasaki Y, Ito S, Hasegawa H, Dobashi H, Ito T, Makino H, Matsuo S. Ann Clin Biochem. 2020 Oct 21: 4563220968371. doi: 10. 1177/0004563220968371
20. Tanabe J, Morita Y, Ouchi T, Tanabe K. A ruptured large pseudoaneurysm of the left ventricle. Intern Med (published online 2020/7/21)
21. Ishikura M, Endo A, Sakamoto T, Tanabe J, Okazaki K, Ouchi T, Watanabe N, Tanabe K. Clarithromycin-induced coronary vasospasms caused acute coronary syndrome in a 19-year-old male patient. Intern Med (published online 2020/9/19)
22. Endo A, Sato H, Kagawa Y, Kawahara H, Morita Y, Yasuda Y, Pak M, Tanabe K. The effectiveness of target low-density lipoprotein cholesterol achieved with strict management in secondary prevention of long-term coronary events in Japanese

patients. Acta Cardiologica Sinica（in press）
23. Tanabe J, Watanabe N, Endo A, Nagami T, Inagaki S, Tanabe K. A case of asymptomatic immune checkpoint inhibitor-associated myocarditis. Intern Med（published online 2020/10/7）
24. Kawahara H, Endo A, Yoshitomi H, Tanabe K. Recurrent granulocyte colony-stimulating factor-induced aortitis after Pegfilgrastim administration. Circ Rep（published online 2020/10/27）
25. Fukunaga S, Hoshino Y, Sonoda H, Yamauchi A, Kawanishi M, Kato S, Yoshikane K, Shiina H, Tanabe K, Ito T. Remarkable elevation of procalcitonin levels due to diabetic ketoacidosis in a hemodialysis patient: a case report. Intern Med（published online 2020/11/23）
26. Ishiguchi H, Yasuda Y, Ishikura M, Yoshida M, Imoto K, Sonoyama K, Kawabata T, Okamura T, Endo A, Kobayashi S, Tanabe K, Yano M, Oda T. Temporal trends in the incidences of ST-segment elevation and non-ST-segment elevation myocardial infarction during the past decade in a rural Japanese high-aged population. Circ J（in press）
27. Pak M, Hara M, Miura S, Furuya M, Tamaki M, Okada T, Watanabe N, Endo A, Tanabe K. Delirium is associated with high mortality in elderly patients with acute decompensated heart failure. BMC Geriatrics（in press）
28. Ishikura M, Endo A, Koshino K, Kagawa Y, Tanabe K. Development of alveolar hemorrhage in patient with acute myocardial infarction complicated with essential thrombocythemia. Am J Case Rep（in press）
29. 佐藤寛大、田邊一明．循環器専門医活動と現況．島根大学医学部附属病院．循環器専門医．2020; 29: 131-134
30. 伊藤孝史、福永昇平．血液浄化療法の歴史～承前啓後～．血液浄化とそれを支える基盤技術（編集：織田成人・酒井清孝）
31. 福永昇平、伊藤孝史．B．腎臓の検査　4．腎臓病の症候と診察．プロフェッショナル腎臓病学（南学正臣編著）
32. 伊藤孝史、内田治仁、柏原直樹．産官学連携臨床研究の展望（KRI-Jの可能性について）．腎臓内科 2020; 11: 622-627
33. 川波由佳、香川雄三、吉冨裕之、森田祐介、松田紘治、川原　洋、山口一人、佐藤寛大、大内　武、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明．急性肺血栓塞栓症と鑑別を要し肺腫瘍源性塞栓性微小血管症が疑われた1例．心臓（in press）

学会・研究会発表（2020 年春号以降）

1. 田邊一明．How to differentiate low-gradient severe AS from moderate AS and pseudo AS. 第84回日本循環器学会学術集会．2020. 7. 27-8. 2
2. 坂本考弘、伊藤新平、遠藤昭博、吉冨裕之、田邊一明．The number of B lines by lung ultrasound can predict left ventricular filling pressure in patients with heart failure. 第84回日本循環器学会学術集会．2020. 7. 27-8. 2
3. Endo A, Kagawa Y, Sato H, Morita Y, Kawahara H, Yasuda Y, Sakamoto T, Watanabe N, Yamaguchi K, Yoshida Y, Tanabe K. Is more strict management after achievement of standard target value of low-density lipoprotein cholesterol effective? 第84回日本循環器学会学術集会．2020. 7. 27-8. 2
4. Morita Y, Endo A, Shimizu A, Tanabe J, Yamaguchi M, Fujita S, Yasuda Y, Okazaki K, Matsuda K, Kawahara H, Kagawa Y, Yamaguchi K, Sato H, Ouchi T, Watanabe N, Tanabe K. Clinical effectiveness and adverse events of Tolvaptan in very elderly patients with acute decompensated heart failure. 第84回日本循環器学会学術集会．2020. 7. 27-8. 2
5. Endo A, Kagawa Y, Sato H, Morita Y, Kawahara H, Yasuda Y, Fijita S, Okazaki K, Matsuda K, Okada T, Ouchi T, Yoshitomi H, Tanabe K. What is more serious risk in prevention of recurrent cardiac ischemia in patients who could not achieve appropriate LDL-C management? 第84回日本循環器学会学術集会．2020. 7. 27-8. 2
6. 岡田大司、山口一人、香川雄三、遠藤昭博、吉冨裕之、浅沼俊彦、中谷　敏、田邊一明．Three-dimensional speckle-tracking echocardiography for estimation of left ventricular filling pressure in patients with left ventricular asynergy. 第84回日本循環器学会学術集会．2020. 7. 27-8. 2
7. 坂本考弘、伊藤新平、遠藤昭博、吉冨裕之、田邊一明．Prognostic impact of gallbladder wall thickening in patients with heart failure. 第84回日本循環器学会学術集会．2020. 7. 27-8. 2
8. ＜YIAセッション＞坂本考弘、村上大輔、伊藤新平、遠藤昭博、吉冨裕之、田邊一明．心エコー図指標に基づいた機械学習によるHFrEFの層別化は将来のHFrecEF群を推定する．日本心エコー図学会第31回学術集会．2020. 8. 14-15
9. ＜YIAセッション・YIA優秀賞＞岡田大司、浅沼俊彦、山口一人、遠藤昭博、吉冨裕之、中谷　敏、田邊一明．3次元スペックルトラッキング法による新しい左室充満圧指標の診断精度．日本心エコー図学会第31回学術集会．2020. 8. 14-15
10. 松田紘治、吉冨裕之、山口一人、田邊淳也、藤田さゆり、岡﨑浩一、安田　優、川原　洋、田邊一明．左室壁運動異常を呈した重症筋無力症の一例．日本心エコー図学会第31回学術集会．2020. 8. 14-15
11. 田邊淳也、大内　武、渡邊伸英、清水彩華、山口まどか、藤田さゆり、安田　優、岡﨑浩一、森田祐介、松田紘治、川原　洋、香川雄三、佐藤寛大、山口一人、遠藤昭博、吉冨裕之、田邊一明．発作性心房細動を契機に診断したATTR型心アミロイドーシスの一例．日本心エコー図学会第31回学術集会．2020. 8. 14-15
12. <Best Poster賞> 田邊淳也、森田祐介、松田紘治、大内　武、清水彩華、山口まどか、藤田さゆり、安田　優、岡﨑浩一、川原　洋、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、山口一人、遠藤昭博、吉冨裕之、田邊一明．一尖弁大動脈弁狭窄症の一例．日本心エコー図学会第31回学術集会．2020. 8. 14-15
13. 田邊淳也、大内　武、佐藤寛大、清水彩華、山口まどか、藤田さゆり、安田　優、岡﨑浩一、森田祐介、松田紘治、川原　洋、香川雄三、渡邊伸英、山口一人、遠藤昭博、吉冨裕之、田邊一明．無症候性心筋梗塞に伴う左室内血栓に対して内科的治療を行った一例．日本心エコー図学会第31回学術集会．2020. 8. 14-15
14. 山口まどか、渡邊伸英、田邊淳也、清水彩華、藤田さゆり、安田　優、岡﨑浩一、森田祐介、松田紘治、川原　洋、香川雄三、大内　武、佐藤寛大、山口一人、遠藤昭博、吉冨裕之、田邊一明．発作性心房細動に対するカテーテルアブレーションの術前経食道心エコー図検査で左房内のstring-like structure を認めた1症例．日本心エコー図学会第31回学術集会．2020. 8. 14-15
15. 安田　優、吉冨裕之、山口一人、清水彩華、田邊淳也、山口まどか、藤田さゆり、岡﨑浩一、森田祐介、松田紘治、川原　洋、香川雄三、佐藤寛大、大内　武、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明．収縮性心膜炎の一例－心膜剥離術前後の心機能変化．日本心エコー

図学会第31回学術集会．2020. 8. 14-15
16. 古志野海人、山口直人、大嶋丈史、広江貴美子、太田庸子、岡田清治、太田哲郎、田邊一明．たこつぼ症候群の左室ストレインと急性期予後の関係．日本心エコー図学会第31回学術集会．2020. 8. 14-15
17. 山口一人、吉冨裕之、岡﨑浩一、松田紘治、安田　優、森田祐介、香川雄三、佐藤寛大、大内　武、渡邊伸英、遠藤昭博、伊藤孝史、田邊一明．大動脈弁逆流と腎血流の関係についての検討．日本心エコー図学会第31回学術集会．2020. 8. 14-15
18. 伊藤孝史、内田治仁、柏原直樹．NPO法人日本腎臓病協会の取り組みの現状．第63回日本腎臓学会学術総会．2020. 8. 19-21、横浜
19. 花房規男、伊藤孝史、佐藤元美、平川晋也、石森　勇、岩本ひとみ、王子　聡、大久保淳、太田秀一、草生真規雄、斯波真理子、清島真理子、中永士師明、横山陽子、和田篤志、山路　健、松尾秀徳．日本アフェレシスレジストリの概念と基本設計．第63回日本腎臓学会学術総会．2020. 8. 19-21、横浜
20. 福永昇平、園田裕隆、星野祐輝、川西未波留、山内明日香、加藤志帆、吉金かおり、伊藤孝史．75歳以上の後期高齢者に対する腎生検の安全性および有用性についての検討
21. 岡田浩一、旭　浩一、伊藤孝史、山縣邦弘、宇都宮保典、小林一雄、八田　告、内藤毅郎、柏原直樹．CKD医療連携に関する腎臓専門医を対象とした全国アンケート調査．第63回日本腎臓学会学術総会．2020. 8. 19-21、横浜
22. 岡田浩一、徳永　紳、中村博樹、伊藤孝史、柏原直樹．一般市民における慢性腎臓病（CKD）の認知度に関するアンケート調査．第63回日本腎臓学会学術総会．2020. 8. 19-21、横浜
23. Sakamoto T, Ito S, Yoshitomi H, Tanabe K. Classification of HFrEF based on echocardiography using machine learning to predict future HFrecEF events. ESC Congress 2020
24. Endo A, Kagawa Y, Sato H, Morita Y, Kawahara H, Yasuda Y, Ouchi T, Watanabe N, Yamaguchi K, Yoshitomi H, Tanabe K. Effectiveness of more strict managements after achievement of standard target value of low-density lipoprotein cholesterol in secondary prevention of Japanese patients. ESC Congress 2020
25. 川西未波留、大庭雅史、園田裕隆、星野祐輝、山内明日香、加藤志帆、吉金かおり、福永昇平、江川雅博、伊藤孝史．Exophiala dermatitidis による真菌性腹膜炎を疑った症例．第26回日本腹膜透析医学会．2020. 9. 19-20、東京
26. 川西未波留、園田裕隆、星野祐輝、山内明日香、加藤志帆、吉金かおり、福永昇平、伊藤孝史．IgG4関連腎臓病と好酸球性多発血管炎性肉芽腫症を合併した一例．第50回日本腎臓学会西部学術大会．2020. 10. 16-17、和歌山
27. 園田裕隆、大庭雅史、岩下裕子、岩下　裕．脚気心による急性腎障害に対して集学的治療を要した一例．第50回日本腎臓学会西部学術大会．2020. 10. 16-17、和歌山
28. 花房規男、平川晋也、石森　勇、伊藤孝史、岩本ひとみ、草生真規雄、中永士師明、王子　聡、大久保淳、太田秀一、佐藤元美、清島真理子、斯波真理子、和田篤志、横山陽子、山路　健、松尾秀徳．日本アフェレシスレジストリ：デザインと中間報告．第41回日本アフェレシス学会学術大会．2020. 10. 22-24、千葉
29. 塚本達雄、山田博之、朝田啓明、伊藤孝史．難治性ネフローゼ症候群に対するアフェレシス．第41回日本アフェレシス学会学術大会．2020. 10. 22-24、千葉
30. 伊藤孝史、大庭雅史、星野祐輝、川西未波留、福永昇平、吉金かおり、江川雅博、椎名浩昭．当院におけるアフェレシス療法の変遷．第41回日本アフェレシス学会学術大会．2020. 10. 22-24、千葉
31. ＜YIA優秀賞＞　森田祐介、遠藤昭博、田邊一明、稲垣諭史．ギランバレー症候群を合併した劇症型心筋炎の１例．第123回日本内科学会中国地方会．2020. 10. 31
32. 田邊淳也、渡邊伸英、山口一人、森田祐介、大内　武、香川雄三、佐藤寛大、遠藤昭博、田邊一明、吉冨裕之．左室流出路狭窄、僧帽弁前尖の収縮期前方運動に伴う重症僧帽弁閉鎖不全症を呈したS字状中隔の1例．第123回日本内科学会中国地方会．2020. 10. 31
33. 川原　洋、大嶋丈史、佐藤寛大、大内　武、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明、吉冨裕之．Pegfilgrastimによる大動脈炎を繰り返した１例．第123回日本内科学会中国地方会．2020. 10. 31
34. 古志野海人、遠藤昭博、岡﨑浩一、森田祐介、川原　洋、香川雄三、大内　武、佐藤寛大、田邊一明．Hydroxyzine投与によるQT延長と心室細動発症時の心電図波形を記録し得た１例．第123回日本内科学会中国地方会．2020. 10. 31
35. ＜若手奨励賞＞福永昇平、星野祐輝、大庭雅史、川西未波留、吉金かおり、江川雅博、伊藤孝史．後期高齢者に対する腎生検の安全性と有用性に関する検討．第32回日本老年医学会中国地方会．2020. 10. 31
36. 松井浩輔、江川雅博、金聲根．抗凝固療法中に筋肉内血種を発症した高齢ネフローゼ症候群の2例．第32回日本老年医学会中国地方会．2020. 10. 31
37. 佐藤陽隆、高瀬健太郎、松井浩輔、金聲根、伊藤孝史．ステロイド治療が奏功した超高齢者のIgA血管炎の1例．第32回日本老年医学会中国地方会．2020. 10. 31
38. 内藤祐美、福永昇平、星野祐輝、大庭雅史、川西未波留、吉金かおり、江川雅博、伊藤孝史．経皮的ドレナージによって治癒した気腫性腎盂腎炎の1例．第123回日本内科学会中国地方会．2020. 10. 31
39. 永井誠大、本田　学、森山繭子、近藤正宏、村川洋子、加藤志帆、伊藤孝史．糸球体腎炎を伴わず，腎小葉間動脈炎のみが起こっていた顕微鏡的多発血管炎の1例．第123回日本内科学会中国地方会．2020. 10. 31
40. 伊藤孝史．透析導入前のサイコネフロロジー．第65回日本透析医学会学術集会．2020. 11. 2-8
41. 山内明日香、福永昇平、園田裕隆、星野祐輝、川西未波留、加藤志帆、吉金かおり、伊藤孝史．著明な甲状腺機能低下症と心嚢液貯留を認めた末期腎不全の1例．第65回日本透析医学会学術集会．2020. 11. 2-8
42. 星野祐輝、福永昇平、園田裕隆、川西未波留、山内明日香、加藤志帆、吉金かおり、伊藤孝史．D605E変異サイトメガロウイルス感染にホスカルネットが著効した腎移植後の一例．第65回日本透析医学会学術集会．2020. 11. 2-8
43. 平川晋也、花房規男、石森　勇、和田篤志、大久保淳、岩本ひとみ、中永士師明、佐藤元美、太田秀一、清島真理子、横山陽子、伊藤孝史、草生真規雄、王子　聡、村上　淳、土谷　健、斯波真理子、山路　健、松尾秀徳．アフェレシスレジストリ開始にあたって～REDCap-SaaSを利用した登録システムの構築～．第65回日本透析医学会学術集会．2020.11.2-8
44. 花房規男、平川晋也、石森　勇、和田篤志、大久保淳、岩本ひとみ、中永士師明、佐藤元美、太田秀一、清島真理子、横山陽子、伊藤孝史、草生真規雄、王子　聡、村上　淳、土谷　健、斯波真理子、山路　健、松尾秀徳．日本アフェレシスレジストリ．第65回日本透析医学会学術集会．2020.11.2-8

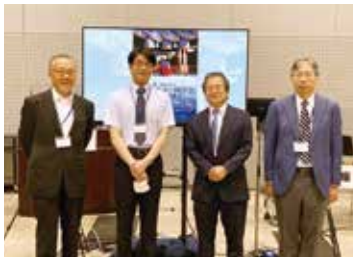
一般社団法人日本心エコー図学会第31回学術集会報告

田邊　一明

本来であれば、2020年４月24日から26日に松江市くにびきメッセで一般社団法人日本心エコー図学会第31回学術集会を開催し、皆様にご報告させていただく予定でした。延期開催を決めた春先には夏になれば、またいつも通りの学会が開催できるのではないかと期待もあり、会場の使用できる日程から2020年８月14日、15日に延期開催としました。その後、事態は長期化し、現地集合型とオンラインのハイブリッド開催を目指していたところに松江市で巨大クラスターが発生し、2020年８月14日、15日の２日間でオンライン開催によるライブ配信、また９月１日から30日までオンディマンド配信による形式で開催となりました。くにびきメッセはテレビ局のスタジオのような役割となり、私をはじめ限られた関係者のみが現地入りしました。それでも配信には多くの製作スタッフが関わっていることを会場に入って知り、大変なことだとあらためて認識しました。反響がわからない分、達成感はありませんでしたが、おかげさまで1200名を超える登録があり、開催延期、開催形式変更にもかかわらず、ご支援いただきました皆様、ご視聴いただきました皆様に感謝申し上げます。

会期を２日間に短縮したため、ご応募いただきました一般演題をオンラインでの閲覧形式での発表形態とさせていただくこととなり、ディスカッションができないことは残念でした。一方で、心エコーをとりまく重要なテーマを17のシンポジウムとして企画しておりましたが、そのまま２日間で配信することができました。さらには急遽「COVID-19時代の心エコー図検査」「スーパーソノグラファーからの挑戦状」という、この時代だからこそのセッションを開催することができました。仁村レクチャーには私の国立循環器病センター時代の指導医で前金沢大学教授・山岸正和先生に、座長は当時の部長であった宮武邦夫先生にお願いしました。山岸先生からは「心エコー図：人間科学の視点から」として、心エコー図の歴史を人の発達段階に照らし合わせて解説をしていただきました。若い人たちの活躍が、学会の活性化・発展を支えていただく力になるというメッセージをいただきました。

特別講演として松江にお招きする予定でしたMayo ClinicのOh先生にはアメリカからライブでご講演いただきました。Oh先生は大動脈弁狭窄症の診断において新たな考え方を示される中、12誘導心電図の情報からAIを使って重症度評価するという時代を先取りする取り組みについても披露されました。時差がありましたが、予定の時間にOh先生が入って来られたときには感激で泣きそうになりました。



私の会長講演は座長をここまで導いていただいた別府慎太郎先生にお願いし、この学会のテーマとした「縁は一生、心エコーも一生」という演題で、これまで医師として駆け出しの頃からこの心エコー図学会に育てていただき、そこでいただいたご縁によって今の自分があること、そして心エコーは一生勉強していく必要があることを伝えさせていただきました。また、ランチョンセミナーで予定しておりました神戸海星病院・北村順先生には学術集会セミナーとして「これからの循環器診療に役立つ漢方薬」のご講演をしていただきました。

全国の皆様に島根県松江市に来ていただけなかったのは残念でしたが、少しでも島根の魅力、歴史に触れていただこうと、俳優の佐野史郎さんとオンラインで対談の機会をいただきました（医局報の後半に対談を掲載しています）。オンライン開催は、本来であれば会場に来られない人にも学術集会を楽しんでいただける機会となります。また視聴できなかった講演もオンディマンドで繰り返し勉強できることになり、今後の学術集会の開催形態についても考える機会になったと思います。海外との交流もむしろ広がっていくことが期待されます。難しい時期ではありましたが、新しい形式を模索し、次につなげる役割を果たせたのではないかと思います。

日本心エコー図学会第31回学術集会 特別講演

佐野史郎さんと田邊一明先生の特別対談－島根県の歴史と魅力を語る－

田邊一明（以下、田邊）　今年の４月、松江市で開催予定でありました日本心エコー図学会第31回学術集会で松江市にご実家のあります佐野史郎さんに島根の魅力についてご講演いただく予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で８月に延期となりました。この開催もオンライン形式となりました。そういう状況の中で佐野史郎さんにオンライン対談をお引き受けいただきました。お忙しい中、ありがとうございます。

佐野史郎（以下、佐野）　こちらこそ、ありがとうございます。

田邊　最初に、佐野さんに伝える役割をされています小泉八雲について、島根、松江の魅力についてお話いただけますでしょうか。

佐野　小泉八雲の朗読を14年続けておりまして、高校の同級生のギタリスト・山本恭司、小泉八雲のひ孫の小泉凡さん（民俗学者、小泉八雲記念館の館長）、心強い仲間と一緒に小泉八雲の世界を僕がシナリオを構成して、毎年松江では10月～11月に公演を続けてきたのですが、今年はコロナ禍でどうなるでしょうか。本来なら、僕一人でも小泉八雲の朗読ができればなと思っていました。僕にとっては小泉八雲の朗読はライフワークと言っていい状態です。

田邊　佐野さんが小泉八雲について伝えることを始められたきっかけ、伝える役割を担っておられる理由がありますでしょうか。

佐野　俳優の仕事をずっと続けてきて、今65歳になりますが、50歳になったころテレビ番組や講演で小泉八雲や古事記を朗読することはあったんですけども、どこまで知っているかと言われると、松江の出身、出雲の人間でありながらまだまだ勉強不足で、芸能に携わる人間として、出雲の人間として、やはり古事記を読み、神話のことを知り、朗読するのであれば小泉八雲のことを知っておかないと、と個人的には思っていました。2004年でしたか、小泉八雲100回忌の法要がございまして、安来の清水寺で行われました。100回忌ということで初めての

朗読のご依頼がありまして、２時間くらいの尺でしたが、「守られた約束」「破られた約束」「鏡の乙女」「耳なし芳一」と大作を初めて通して朗読しました。本堂でやらせていただいたこともあって、臨場感がありまして、特に耳なし芳一は阿弥陀寺という下関のお寺が舞台になっておりましたし、お寺で実際に耳なし芳一を朗読するという臨場感に助けられて手ごたえを感じ、おもしろかったなと思っていたところ、翌年松江市から正式に毎年朗読をどうだろうかとご依頼を受けました。やるのであれば、きちんと構成して、自分でテーマを決めて、約束であるとか、邂逅であるとか、秘密であるとか、そういうキーワードを中心に作品をセレクトして、怪談話だけではなくて、紀行文であるとか、おとぎ話であるとか、難解であるかもしれないけども哲学的論法を取り混ぜました。松江でやるからには、知られざる日本の面影の中、明治時代の松江の風景がいかに美しかったか、今もそんなに変わらない部分がまだまだあるんだということ、130年前に残された言葉を口にして、何が変わって何が変わらないか、松江の良さ、出雲の良さ、山陰の良さ、日本の良さをあらためて知ることとなりました。それを毎年続けてきて、読めば読むほど知らないことだらけだなということにも気づかされまして、まだまだ勉強途中です。俳優としてドラマや映画の現場にフィードバックされることが多くて、いい学びの機会となっております。

田邊　小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）は松江ではヘルンさんと呼ばれますが、130年前に英語教師として松江に来られて、日本の面影など残された紀行文を読みますと、短い期間に島根のいろんな所を訪れて、残しておられます。今も変わらぬ風景もあるかと思いますが、佐野さんにとりまして、松江、島根の魅力はどんなところにあると思われますか。

佐野　僕は６歳まで父親の仕事の関係で東京の練馬に住んでいました。小学校１年の３学期に転校してきましたので、それまでお盆に帰ってきたりはしていましたが、松江を外から見ている視点が今でもあります。美しい風景、家の裏にも小川が流れていましたし、しょっちゅう宍道湖にも遊びに行きましたし、自然がまわりにたくさんあってすぐに溶け込みました。でも、外から見た松江という視点がずっとあって、当たり前のように松江のことを思っていたわけではありません。それもあって、ハーンの文章を読んでいると、初めて見た松江の風景と重なるんです。それが個人的には大きいかなと思っています。距離をおいて見てしまうところがあります。

俳優という仕事柄、松江城を築城にいたる堀尾公を演じたり、ゆかりの彦根藩主・井伊直弼を演じたり、松江藩とゆかりのある土地の役柄も決して少なくはなかったですし、松江だけを見るのではなくて、歴史上の人物を演じることで、歴史上の人物を通して、松江がどう見えるかという感覚が、特に還暦を過ぎてから強くなりました。小泉八雲だけというわけではなかったですけど。でもヘルンさんは１年３か月しか暮らしていなかったですけれども、奥さんのせつさんが松江の人間ということもあり、最初に松江に訪れたときの印象が日本の原風景として強く残っているのではないかなと思いますし、それが古代に対する思いと重なって、松江の風景から読み解く歴史として受け止めていた気がします。僕自身はいろんな役柄を演じることで多重に歴史の層が見える気がします。

田邊　昨年、アメリカでツアーをされて、朗読をされたとブログで読ませていただいたのですが、佐野さんがアメリカで小泉八雲を紹介されるのは、どういうきっかけがあったのでしょうか。

佐野　小泉凡さんの奥様の祥子さんがプロデューサーとなって2014年からでしたか、その前からも「オープンマインド」というキーワードで小泉八雲が民族を超え、文化風習を超え、人間の分け隔てのない世界、開かれた心を持つことが大切ではないか、そういう世界感のもとで世界中から研究者が集まるようになった。オープンマインドというシンポジウムがきっかけとなって松江城でも

展覧会があり、僕も写真を提供しました。じゃあ、生まれ故郷のギリシャのレフカダ島で我々のやっているパフォーマンスを、彼の生まれ故郷で、日本で残した数々のすばらしい言葉を幼いハーンに、母親に届けようじゃないかと2014年にやったんですけど、音を楽しんでいただいて、意味は字幕で読んでいただいて、音楽として楽しんでいただけたのではないかと思いました。皆さん大変喜んでいただきまして、それならばということで、アイルランド、父親の生まれ育った地で朗読をやりました。アイルランドは妖精の国ですし、ギリシャはギリシャ神話の神々の国ですし、日本は妖怪、八百万の神、アミニズムというキーワードで重なる感覚的に近いところもあって、アイルランドでも大変楽しんでいただきました。大統領邸にもお招きいただきました。多神教であったり、アミニズム、妖精、妖怪、神々という感覚が説明しなくてもふっと入っていく。アメリカはそういうわけにはいかないんじゃないかという危惧がありました。ニューヨーク、シンシナチ、ニューオリンズの３か所でやりましたが、ニューヨークは日本文化に興味を持っている人がたくさんいらして、８割は日本人ではなかった。シンシナチはハーンが新聞記者として文筆を始めた土地でもあり、ニューオリンズは10年くらいジャーナリストとして過ごした土地でいろんな文化が混ざっていて、伝わりやすかった。総じて興味を持っていただいて、アメリカ時代に残した怪談を入れながら、日本の怪談と並べて、宗教観、文化風習が違っても、恐怖に対する感覚、自然に対する恐れというものは人類みな変わらないんだなと感じながら各地を巡りました。昨年の11月でした。その直後のコロナ禍で世界中が考え方、捉え方が分断されてしまっているように感じられる。何が共通して感じられるのだろうかと探ってきた我々としては、あらためてハーンが今の世を描いたらどのように見て、どのようにあるべきだとメッセージするのか、ここのところよく考えますね。

ハーンの訪れた明治23年ころでしたかコレラが流行したり、疫病のことについてもハーンは綴っているんですね。それは明治という時代で開国されて、世界中からいろんな人々が訪れることによってわからない細菌が入ってきたことと思います。遡れば遣唐使、遣隋使の時代にも疫病が流行ったといいますし、何かグローバル社会になるたびに疫病が流行っているということは、ハーンを通じてあらためて学び、なるほどと腑に落ちると思っているところです。

田邊　小泉八雲のオープンマインドというキーワードを私たちもよく耳にします。分け隔てのない世界観、八百万の神々も出てきましたが、出雲には八百万の神々が集まる出雲大社があります。調べてみますと古事記に出てくる神話の３割、４割は出雲神話と言われています。佐野さんは古代出雲文化の魅力についても発信されています。

佐野　小泉八雲も杵築という作品を残しています。出雲大社は杵築と呼ばれていました。僕は母方が出雲大社の写真館の出身なので、幼いころから遊び場で、夏休みなどあずけられぱなしで、慣れ親しんでいてこれが当たり前と思っていました。出雲は古い土地だと教わってきました。今のように学術的に遺跡が発掘されたりすることがまだまだ進んでいませんでしたのでおとぎ話のように聞いていましたが、古い歴史のあるこの国の根幹をなす国だったと聞けば、子供ながらに誇らしい気持ちでした。小泉八雲は千家尊紀宮司に案内されて初めて外国人として昇殿した人物ですけども、それは小泉八雲が来日前から古事記を熟読してそのへんの日本人よりよほど詳しい学者であった、そのことに感銘を受けて千家さんも特別なお計らいをされたのではないかなと思います。

出雲大社の遷宮前後に多くの歴史番組が製作される時、お声をかけていただいて、仕事を通して学ぶことが多かったです。その前はどうだったのか、出雲大社が建立されるに至る歴史に興味が沸いて、その興味が今でも尽きないですね。なかなか答えは出ないですけども、大きな柱が出てきたり、荒神谷の銅鐸、銅剣が出てきたりして、出雲という国はかつて豪族が治めていたことには間違いない。地層のように人々が暮らしてきたり、息吹き、息づかいがここに確かにあったのだということを強く思います。そのきっかけはやはり小泉八雲なんですよ

ね。130年前に日本を訪れた時の日本の印象、松江の風景、出雲の気質、山陰に残る古代の歴史、そういうものをハーンが言葉として残した。それを130年後の我々が口にし、言葉を伝え、それを受け止めていただくということで、130年前の時間が今に蘇る。あるいは僕らが130年前にタイムスリップし、過去に行って小泉八雲の見たその感覚を身体で感じながら130年前の時空を想像する。そのままご当地であれば感じることができる。宍道湖のほとりで朝、こんなに美しい風景だったと、宍道湖の夕陽を見ても、宍道湖の水面を見ても130年前と全く変わらない風景を八雲さんも見てたんだと思うと、ならば、その前はどうだったんだろうか。そのころに残された古事記、日本書紀、あるいは出雲風土記に残っている古事記には残されていないような神話、国引きの神話、そういうのを読んでいると、その時代の人々もこの風景を見ていたんだと感じる。1300年前、130年前と現在は写真でいえば多重露光のような感覚で大きな一つの今が感じられる。それを広げていくと１万６千年前と水位は変わったかもしれないけど、出雲の風景を感じる。古事記、小泉八雲の残してきた言葉、映像は残していけないが、口伝では言葉が伝わる。その土地に根ざした言葉が大事だと思います。

田邊　貴重なお話をありがとうございました。出雲大社は縁結びの神様としても知られていますが、歴史を感じることのできる雰囲気を持ったお社ですので、是非訪れていただきたいですね。

佐野　八重垣神社、神魂神社、熊野大社や奥出雲の方にはまだまだ聖地がありますので、私も出かけてみたいと思っています。

田邊　この学術集会、集会という言葉がこれまで人が集まるという意味だったわけですけど、オンラインになって普段参加できない人も参加でき、聴衆も広がっていく可能性があります。最後に医師、超音波検査技師、メーカーのかたがたへのエールをお願いできますでしょうか。

佐野　僕も医家に育ちましたので、医者は叶わずでしたけど、弟に押し付けましたけど、医師の役をやることも少なくはありませんでした。チームバチスタの栄光、バイパス手術や肺の全摘をビデオアシストサージャリーですか、ドラマの世界ではいち早く取り入れて、時代時代の最先端のお医者様から教わることがありまして、弟からも聞いていますが、やはり心強いなと思います。私自身も昨年末に第３腰椎骨折事故を収録中に起こしてしまいまして、危険な状態を間一髪で逃れました。完治していますが、その時に初期の治療に助けられた思いがあります。その直後のコロナ禍の中、ドラマの現場でも撮影ぎりぎりまでマスク、フェイスシールドをして、体温も毎日朝昼晩と測り、それでも感染者が出てしまうこともあります。どの仕事も大変だと思いますが、この先、どういうふうに過ごしていったらいいのだろうかと切実に思います。抗原検査、PCRもやったばかりで、こういうものと付き合っていかないといけない。いろいろな意見があるけど一体何を信じていったらいいのか不安だと思います。実際、どうしたらいいですかね。

田邊　できるだけ感染しない対策を日々取り入れながらやっていくしかないのではないでしょうか。ただ、避けて通るわけにはいきませんし、人命にかかわれば、当然そこに集中して力を注がないといけません。感染をできるだけ避ける生活を私たちは受け入れるしかないのではないかと感じています。そのうちにワクチンが出てきたり、インフルエンザのような感染症に落ち着いていくのだと思います。

佐野　昨年入院したときに医師、看護師さん、技師さんを頼もしく感じておりました。PCR検査にしても、検査していただかないことには対応のしようがありませんし、皆さんのお力がなければ成り立たない世界だと思います。なるべくご負担をおかけしないように一人一人がしないといけないと思います。あまり陰陰滅滅として生きていてもいけませんし、我々が精神的に追い込まれて生きる喜びを失わないようにコントロールしていかないといけないと思います。医療に携わっていらっしゃる方々が疲弊なさってしまわれてもいけません。といって簡単に頑張ってください、というのも失礼な気もしますし、心して日々を過ごせればなと思います。よろしくお願いします。

田邊　どうもありがとうございました。島根、松江、出雲の魅力、小泉八雲について佐野さんに語っていただき、その魅力を深める機会になったと思います。また安全にお越しいただける時代になりましたら、全国から訪れていただきたいと思います。

佐野　こういうリモートもいい所があると思います。災いを転じて、バーチャル観光もガイドとして魅力を言葉で、映像でご案内できると思います。

田邊　そのときは是非、佐野さんにナレーションをお願いします。それでは、お忙しい中ありがとうございました。お元気でご活躍をお祈りしています。

佐野　みなさんお元気でお過ごしください。ありがとうございました。

第32回日本老年医学会中国地方会報告

大会長　伊藤　孝史

賞状

若手奨励賞

島根大学医学部附属病院　腎臓内科

福永　昇平　殿

あなたは、第三十二回日本老年医学会中国地方会において、学術の向上に貢献する優秀な発表を行いましたので、その栄誉をたたえるため記念品を授与し、これを表彰いたします。

令和二年十月三十一日

第三十二回日本老年医学会中国地方会

会長　伊藤　孝史

平成30年11月26日、日本老年医学会中国支部長の山口修平先生からメールが届きました。「平成32年度に出雲で開催される秋季日本内科学会中国地方会（会長：礒部威先生）に合わせて日本老年医学会中国地方会も開催予定であり、その会長を私にお願いしたい」という内容でした。大変光栄に思い、喜んでお引き受けしたのを昨日のことのように思い出します。あれから２年、令和２年10月31日に第32回日本老年医学会中国地方会を開催させていただきました。当初は島根大学医学部附属病院のゼブラ棟で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、日本内科学会中国地方会大会長の礒部先生や担当コンベンションのメッドさんと相談の結果、完全webでの開催とさせていただきました。

何度もハイブリッドで開催される学会に参加しておりましたが、自分が主催するとなると話は変わります。演題募集の段階ではまだ現地開催の方向性でしたが、一向に状況は改善せず、決断を迫られました。Web開催は現地開催より費用がかかります。それでなくても山陰での開催ということで参加者が少なくなりますし、広告やランチョンセミナーの共催企業の皆様の支援が減れば、大きな赤字を抱えるのではないかと不安でした。しかし、北は北海道から南は九州まで、全国から197名の先生にご参加いただきましたし、共催を申し出ていただいた企業の皆様も当初の予定通りに支援してくださったおかげで、無事に開催することができました。本当にありがとうございました。

特別講演は杏林大学医学部高齢医学・神﨑恒一教授に「高齢者におけるフレイル・サルコペニアとその対策」というテーマで、ランチョンセミナーは岡山済生会外来センター病院の平松信名誉院長に「高齢者における腹膜透析の有用性」というテーマでご講演をいただきました。いずれの講演にも100名を超える視聴者がありました。当初は一般演題の応募が少なく、多くの先生方に何度も催促をしてしまいましたが、最終的には26演題もいただき、山陰開催では決して少なくない演題数でほっとしました。島根大学腎臓内科の関連病院からは、出雲市民病院の松井浩輔先生、島根県立中央病院の佐藤陽隆先生が発表してくださいました。演者にはリアルタイムで発表していただきましたが、学会の流れを止めないようにと考え、質問は座長のみに限らせていただきました。学会の進行という面ではスムーズでしたが、熱い質疑応答ができなかったのが本当に心残りです。若手奨励賞候補は４演題あり、厳選な審査の結果、当科の福永昇平先生が若手奨励賞を受賞されました。おめでとうございました。福永先生には事務局長としても、ご活躍いただきました。

学会中には、ちょっとしたトラブルがありましたが、開会の挨拶から閉会の挨拶までずっと視聴していたおかげで、何とかうまく乗り切れたのではないかと思います。これほどまでに一日中学会に集中したのは初めてでしたし、これからもないかもしれません。本学会の演題は、日常臨床で遭遇する疾患であったり、これから考えていかなければならない高齢者医療の話題が中心であり、とても興味深く、勉強になりました。Web開催ということで、会場で熱い質疑応答ができませんでしたし、日頃お目にかかれない先生方と直接お話をするという学会での楽しみが奪われて

しまいましたが、このようなweb開催が可能になったことで、遠方からでも多くの先生方に参加していただけるようになったのは、コロナ禍の産物でもあると実感しました。

最後になりますが、第32回日本老年医学会中国地方会の開催にあたりましては、初めてのことが多く、多々ご迷惑、ご不便をおかけしたことと思いますが、ご容赦いただければと思います。本当に多くの方々にご支援いただきましたこと、この場をお借りして心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

同門会長挨拶

コロナ禍の中で

同門会長　佐藤　秀俊

例年以上に暑い夏が終わるとともに朝夕の寒さを感じるようになった今日この頃となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。いつも同門会に対しましてご支援、ご協力いただきましてありがとうございます。医局への援助など出来ますのも、皆様のご支援のおかげと感謝しております。本当にありがとうございます。

今年は新型コロナウイルス感染症が全世界に蔓延し医療も経済も混乱し、東京オリンピックは延期、甲子園大会など学生のイベントも中止となるなど未曾有の年となりました。その中で感染症の最前線で医療に携わっておられる医療関係者の方々、経済を復興させようと頑張っておられる方々、目標としていた最後の大会がなくなっても今後に向かって前向きに頑張っておられる学生の方々などテレビなどの報道で見るたびに本当に頭が下がり、目頭が熱くなります。そういった皆様に衷心より敬意を表します。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、同門会総会、医局コンペ、田邊一明教授還暦祝賀会など昨年から予定しておりました行事を次々と中止せざるを得ず、皆様にご迷惑をおかけしましたこと、大変申し訳ありませんでした。来年からは状況を鑑みながら行える行事を執り行う予定で、決まり次第ご案内いたしますのでご参加の程よろしくお願いいたします。新型コロナウイルス感染が落ち着き、来年度の同門会総会などが開催できるよう、そして同門会の皆様にお会いできるのを心より楽しみにしております。

これからの季節は新型コロナウイルス感染症のみならずインフルエンザなどの感染症の流行が懸念される時期となります。どうか同門会の皆様の日常診療が恙なく行われますよう、そしてお元気で過ごされますよう祈念しております。

道

編集後記

春から論文投稿が増え、rejectもそれに比例して増えます。かつて同じ病院で仕事し、現在聖路加国際病院で活躍している水野篤先生が症例報告の重要性を説き、若い先生方を鼓舞しています。「しょせん論文、rejectでも自分を全否定されたわけではない、という鈍感力です。恋愛に似ていますが、投稿で心の傷を負っても、死ぬわけでも、肉体に痛みを受けるわけでもありません。私の好きな漫画に『昴』(小学館, 曽田正人)というバレエ漫画がありますが、その中で“おまえを殺してしまわないものはすべてお前を強くしてくれる”というニーチェを元にした言葉が出てきます。根性論ですが、ぜひこの気持ちを持って奮起しましょう」。Rejectは恋愛に似て引きずりますが、acceptの知らせに祝杯を挙げ、掲載された論文に笑みを浮かべる日を医局員に経験してもらいたいと思います。

(田邊)

島根大学医学部内科学講座内科学第四

循環器内科・腎臓内科

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

電話(0853)20-2206(医局資料室ダイヤルイン)

Fax(0853)20-2201(医局資料室)

循環器内科ホットライン　070-5672-8109

URL: https://www.med.shimane-u.ac.jp/internal_med4/index.html